

2017

数字から見る
日本

今月の提案 Vol.45

スマホによるフリマアプリ 市場規模3,052億円

一流れはネットオークションからフリマへ

スマホによるフリマアプリのメルカリといえば、TVCMが盛んに放映されたり、一万円札が出品され問題視されたりして、何かと話題になっている。その会社が、2017年7月22日(土)に株式上場するというニュースが流れ、時価総額1,000億円を超える規模が予測され、さらに話題を呼んでいる。

メルカリは、スマートフォン用のアプリを介し、フリマ（フリーマーケット）を実現しているアプリであり、個人間の物品売買を仲介して、その手数料で事業が成立している企業である。

個人間の物品売買といえば、一時期Yahoo!をはじめとするオークションが人気を呼んだが、今や、それがフリマに移行しつつある。これもスマートフォンの普及によるものといえる。

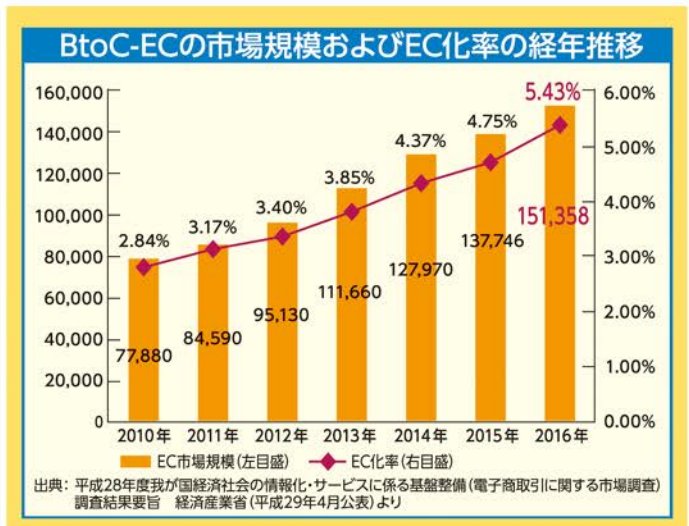
経済産業省が、2017年4月24日(月)に発表した「平成28年度我が国経済社会の情報化・サービス化に係る基盤整備（電子商取引に関する市場調査）」によると、物販分野における2016年のスマートフォン経由のBtoC-ECの市場規模は5,697億円増の2兆5,559億円（前年比28.7%増）となっている。これは物販のBtoC-EC市場規模8兆43億円の31.9%に相当する金額である。

さらにネットオークションの2016年の市場規模を推計したところ、1兆849億円となった。うち、CtoCによる市場規模は3,458億円という推計結果に。2016年1年間のフリマアプリの市場規模を推計したところ、3,052億円となった

BtoC-EC市場とは企業による楽天やAmazonのようなショッピングモールにおける、いわゆるネット通販になるが、CtoC市場とは個人

間取引になり、これがいわゆるフリマ市場に相当すると言える。しかも2017年以降、さらに拡大する勢いがある。

オークションもそうであるが、フリマへの出品は、以前であればデジカメでの撮影、加工、値段付け、商品説明、Webサイトへの掲載、売買方法の提示、質問者への対応、実際の決済、入金確認、発送など様々な工程があり、さほど簡単な作業とは言えなかった。しかし、専用アプリが登場したことで、誰でも、すぐにも、出品が可能となった。発送に関してもメルカリ便などユーザーの負担を軽減させる工夫が強化されてきている。処分困っていた不要品が、スマホによるフリマアプリで収入に変化させられる。フリマ市場はますます拡大すると思われる。



■参照資料

- 電子商取引に関する市場調査の結果を取りまとめました <http://www.meti.go.jp/press/2017/04/20170424001/20170424001.html>
- フリマアプリ市場は3052億円、オークション市場に追いつく規模に—— 経済産業省が調査 <http://jp.techcrunch.com/2017/04/26/meti-estimates-furima-app-market-size-as-300-b-yen/>
- メルカリ、東証に上場申請＝時価総額1000億円超 https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20170722-00000066-jij-bus_all



美楽からの一言

スマホによるフリマ市場は、モノ余りの時代において画期的な一大流通を築き上げる可能性もある。一方で、現金を販売するなどの悪例のような脱法行為を行う者も現れるという危険性も伴う。上場企業が登場するとすると、その社会的責任もより重くなるであろう。